

# 令和元年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

## 1. 昨年度の「改善プラン」の検証

### (1) 【成果】

- ・学習には落ち着いた態度で取り組むことができる。
- ・記述の問題に意欲的に取り組める生徒が多く、課題に考えて取り組む習慣がついている。
- ・実験観察に意欲的に取り組むことができる。

### (2) 【課題】

- ・学力効果測定で昨年度と比較すると、1年生は+0.8、2年生は+4.3、3年生は-1.1であった。
- ・1年生は全体的には目標値を上回っているが、動物や植物など生物の単元での理解がやや不十分で、自然への興味関心と理解を高めていくことが課題である。
- ・2年生は全体的に目標値を上回っているが、「植物の分類」や「火山」が大きく下回っているため、反復学習をし、内容の定着を図る必要がある。
- ・3年生は単元によって目標値を上回るものと下回るものとに分かれているが、年度の早い時期に学習したものの正答率が低く、遅い時期に学習したものは正答率が高くなる傾向がみられるため、年度末に復習し、定着を図る必要がある。

## 2. 授業改善のポイント

※改善内容に観点【関】【思】【技】【知】を記入。

### 1 学年

- 実験や観察をなるべく多く取り入れ、生徒の積極性を引き出す。また、日常生活と結びつけた話をする中で、生徒の興味を引き出し、理解に結びつける。【関】
- 実験や授業の内容について、毎回プリントやノートをまとめることで、自分で考える力を養う。また、発展的な課題を与え、思考力、表現力を高める。【思】
- 実験観察における安全な取り組みを身につける。実験器具の名称や使い方等、その都度、指導する。学習した内容を、グラフ、作図、記述でまとめるなど、理解を深める工夫をする。【技】
- 学習した重要な言葉を小テストや定期的な復習を通して、繰り返し学習させ、知識の確実な定着を目指す。【知】

### 2 学年

- 発言する機会を多く取り入れ、生徒の積極性を引き出す。また、日常生活と結びつけた話をする中で、生徒の興味を引き出し、理解に結びつける。【関】
- 実験を行った際には、毎回、考察を書くことで、自分で考える力を養う。また、発展的な課題を与え、思考を深める体験を行う。【思】
- 実験観察における安全な取り組みを身に着ける。実験器具の名称や使い方等、その都度、指導する。学習した内容を、グラフや化学式、作図、記述でまとめるなど、理解を深める工夫をする。【技】
- 学習した重要な言葉、原子の記号や化学式などを小テストや定期的な復習を通して、繰り返し学習させ、知識の確実な定着を目指す。【知】

### 3 学年

- 実験観察を積極的に取り入れ、直接体験する時間を取る。また、現代の技術に応用された事例を紹介し、調べ学習を行う。生徒の興味を引き出し、理解に結びつける。【関】
- 科学的現象から調べる方法を考える。また、日常生活での関連を考えさせる。学習活動の中で、話し合わせる時間をとるなど、多面的な学習活動を展開し、思考力の育成を目指す。【思】
- 学習した内容を、グラフや化学式、作図、記述でまとめるなど、理解を深める工夫をする。【技】
- 学習した重要な言葉、原子の記号や化学式などを小テストや定期的な復習を通して、繰り返し学習させ、知識の確実な定着を目指す。【知】